

ワークショップでいただいた主な意見

テーマ①『こんな経験はありますか』

障がいのある方：街中で障がいのない方と接して、対応が嬉しかったこと、こうしてほしかったこと、どのように思っているか疑問に思ったこと

障がいのない方：街中で障がいのある方を見かけたり接したりしたときに、てだすけしたこと、うまく対応できなかったこと、どうすれば良いか分からなかったこと

障がいのない人からの意見

- 階段を上るとき、車椅子ごとかついであげたことがある。〇〇線沿線で、スロープがなく、全て階段の駅がある。
- 自分を基準に考えてしまう。障害理解について考えていかなければいけないと思った。
- 白い杖を持っている方に声をかけたが「大丈夫です」と言われた。
- 駅で杖を持った人がいて、声はかけないが見守っている。
- 障がいのある人に話しかけるのに躊躇してしまう。当事者から声をかけて貰うほうが良いかもしれない。
- 個性なのか障害なのかわからないことがある。
- 小さいころに障がいのある人と接する機会があまりなかった。
- 聴覚障がいのある人と同じ職場で、トイレを共用するのに困ったことがある。(電源の ONOFF や出入りなど)
- 手助けというものがどういったことか、していいものか、わからない。悩む。「余計なこと」と言われてしまうかも。
- ヘルプカードを持っている人には何かあったら声をかけている。

障がいのない人から視覚障がいのある人への意見

- 聖蹟桜ヶ丘の駅で杖を持っている方がいた。信号を渡るときに少し声をかけたが、どこまでサポートしたらよいかわからなかった。
→声をかけるだけでも勇気がある。「何か困っていたらお手伝いしましょうか」と声をかけるのが大事。声をかけて気分を悪くしてしまう方もいるので…
- 視覚障がいの方の案内の仕方がわからない。
→その人により違うので「どうすればいいか」を「本人に」聞いて欲しい。
- 手伝う際に気を遣ってしまう。本当はどう思っているのか。
→階段の数を数えている人もいる。頭に自分の地図を持っている。ガイドさんを頼むようになるまで大変だった。
- 白状はみんな持っているのか。
→決まりでみんな持っている。

- 手助けしてもらって迷惑だったことはあるか。
→「メガネをかけてるじゃない、見えないの？」と言われて何も言えなくなった。
- 手助けして欲しいことは何か
→バスの時刻表、ゴミだしの曜日は隣の人に聞くことがある。
急なことはガイドさんでは間に合わない。(4日かかる。)

障がいのない人から車椅子利用者への意見

- 車椅子の方が階段を下りるときにどのように手助けしたら良いか。
→人によって前向きに降りたほうが安心する人もいるので本人に聞く。

障がいのある人からの意見

- 自分の考えをうまく伝えられない人もいる。しゃべれない人にも意志がある。時間がかかってもその人の意見を引き出して欲しい。無視することは差別。
- 声をかけてもらえると安心する。声をかけるか迷ったら声をかけて欲しい。そういう人が多いと思う。
- ジョブコーチというものがある。民間事業所で働く障がい者と事業所の間に入ってやり取りをしてくれる。もっと活用できるようになればいい。
- 声をかけるかで悩んでいるなら、まず話しかけて。何かできることはあるかを本人に聞いて欲しい。
- 条例の話聞いて、基本となることを決めてもらえると助かる。
- 某遊園地はバリアフリーなど障がい者の配慮がすごい。これは海外の基準から？日本は遅れている。
- 初めての場所や慣れない場所では行くことが難しい。
- 仕事に就くことが難しい。
- 少しでも気遣ってもらえると嬉しい。

視覚障がいのある人の意見

- パワーポイントの色合いなどが見えにくい。障害理解に対する不安がある。
- まったく見えない人、少し見える人で必要な手助けなどが変わる。
- 字が見えない。電話をかけるのも難しい。お店もどんどん変わる。

車椅子利用者からの意見

- 車椅子の方が電車に乗るとき、駅員が後ろから押すのは介護者がいないとき。
- 地方の駅はスロープが少ない。
- 電車に乗る際に何十分も駅員を待つことも。
- 日々の生活で心のバリアを感じる。半径1mくらいはみんなが離れる。バスに乗

るとき、同じバスに乗るほかの乗客が離れていく。頼まれたくないと思ってしまうのか？

- 介護者の人にだけ電車の乗り方を伝えて車椅子の人には伝えない。
- 駅員さんが本人に話しかけない事例について、〇〇線は本人に聞いてくれる。△△線は介護者に聞く。
- 電車などでスロープの乗り降りの際に本当に安全かどうかの確認をしたりする。
- 解消法ができたことで、不動産での対応が変わった。車椅子の人という理由で断られることがあった。
- 車椅子でバスに乗るとき、係員が車椅子のロックの仕方がわからなかったりする。
- スーパーマーケットで買い物をしていたとき道が狭く邪魔と言われた。
- 過剰に距離を置かれる。避けられる。

聴覚障がいのある人の意見

- 聴覚障がいの方は気づかれない。
- 聴覚障がいの方はコミュニケーションが取りづらい。手話、音声言語が必要。

知的障がいのある人の意見

- 映画館でチケットを買うとき、知的障がいがあるため店員さんとのやりとりが難しかった。店員さんにわかりやすい説明や受け答えをして欲しい。

テーマ②『生活のいろいろな場面で「こうなったらいいな」と思うこと』

お店

- レストランで忙しい時間に来ないでと言われることを何とかして欲しい。
- 車椅子でゆっくり買い物がしたい。→出入り口や通路を広くして欲しい。
- 車椅子で出かけるとき、お店に入りやすい対応をして欲しい。
- レストランやお店のメニュー等にルビを振って欲しい。

交通機関

- 車椅子の方と一緒に動いて思ったこと。モノレールでは自動でスロープが出てくる所もあるが、それ以外だと駅員さんに頼んで電車を待たなくてはいけなくて不便。スロープが出てくる所が増えれば動きやすくなる。
- バス乗降時のスロープの出し方などの対応があまりできていないので研修などでできるようにしておいて欲しい。

教育

- 学校で障がいがあってもなくても通常級に入れると良い。幼いころから一緒にいることでお互いが理解し合えるのでは。
- 障がいのある人を分けて手厚い支援をするのではなく一緒にインクルーシブ教育を。
- 道徳の授業で障がい者の人を知る授業をやると良い。
- 私立の学校で道徳の授業で車椅子体験をした。公立学校でもできたら良いなと思う。
- 学校を含め、市内のバリアフリー化を徹底して欲しい。
- 学校である日突然「特殊学校に行きなさい」と言われた。一般の人と一緒にいたい。
- 学校で障がい者に対する教育をして欲しい。

トイレ

- トイレで以前は車椅子マークのみだったが今は「だれでもトイレ」と書いてあるので車椅子以外の人も使うことが多い。内部障害(ストマ)かもしれない。普通のトイレにもストマを洗浄できるものを付けて欲しい。
- 介助者として外出先のトイレが狭い。車椅子のトイレのないところも多い。高速道路のトイレは理想的。
- だれでもトイレが空いていなくて入れない。子ども連れや健常者が入ってしまう。「車椅子優先トイレ」「障がい者専用トイレ」というような名前にしたら良いかもしれない。全てのトイレが車椅子で入れるトイレだと良い。オストメイトの人もいたので優先順位をつけた方が良い。

理解促進、周知

- 「障がい者ととともにひとときの和(※)」の大人版や市民版があれば遊び心を持って理解してもらえる。
- 車椅子を好奇な目で見られる。特に子ども。車椅子利用者への理解をきちんとできるような教育が必要。
- ヘルプマークの周知

※障がい者ととともにひとときの和…市内の障がい者団体等の協力のもと、市内小学校において、視覚・聴覚・肢体などに障がいのある方の講和、点字・手話・車椅子の体験などを実施する場。年間2校ずつ、輪番制で実施。

声かけ・接し方

- 皆に気軽に声をかけてもらって手助けして欲しい。
- 「手助けしましょうか」「何か困っていますか」と迷わず声をかけて欲しい。口調

は普通の大人に対するもので。

- もっと不自由な方に対しての声掛けが多くできたら良い。無関心層が多い気がする。
- 対等に接して欲しい。1人の大人として話して欲しい。

その他

- 老人の方、車椅子の方はあまり外にいない。気軽に外出できる環境だと良い。
- 障がいのある人同士ネットなどでネットワークを作れると良い。
- 発達障がいの方には障害者手帳を持っていて欲しい。
- 手続きの書類にルビを振って欲しい。言葉自体もわかりやすい言葉を使って書いて欲しい。

テーマ③『理解を広めるための取り組み』

イベント

- 障がいを持つ方がサービスする、一般人が来やすいイベント(お祭り、お弁当配達)を開催する。
- 障がい者ふれあいスポーツ大会の一般の方の参加を増やす。
- 子どものうちから障がいのある方を知り、地域にいることを「当たり前」に認識するようになることが大事だと思うので、子どもにもわかりやすい・子ども向けのイベントを開催する。(話したり遊んだり)
- 障がい者だけの美術展・スポーツ大会ではなく、障害・一般に分けず開催する。その機会でも両者が理解できる。
- イベントの開催。障がい当事者の発表や関係するボランティア団体も参加して盛り上げる。
- 障がい者だけ集めないで一般の人達のイベントに参加出来るように車椅子席やいろいろな障がい者が入れる為の合理的配慮をして欲しい。
- 「障がい者〇〇」といった括りはやめたほうが良いと感じる。

意見交換会・交流

- ワークショップを開くときは障害別にやってみる。
- 本日のようなワークショップの継続
- 地域で障がいのある人・ない人での懇談会
- 市民と障がい者の情報交換会
- 本音の体験談、思いを語る場をつくる。やはり会って話すことが重要。それぞれが生きづらいことを自分ごととして捉えることが大切。

- 当事者が本当に困ったことを知る機会をつくるべき。

情報発信・PR

- SNS での発信
- 実際にうまくいった事例をニュースレターで紹介
- 心つながりハンドブックを作ったことを伝える。
- 障がい当事者が語る体験談と、それに対する市の対応を載せると、障がいをお持ちの方にとって優しく、一般の方にも周知が効くのでは？
- こころつながりハンドブックを渡すことが必要であり、一箇所でも多く配布する。キティちゃんをハンドブックに掲載してはどうか。
- 世代にあった情報提供(紙媒体、TV、SNS)
- 近所の店にチラシなどを置く。
- ガイドヘルパーさん・ヘルプカード等を宣伝する CM
- 市役所で SNS アカウントを作成し、外に出ることが難しい人に情報発信する。情報を得ることで外に出るきっかけになるのではないか。
- YahooJapan の見出しに掲載させてもらう。
- Youtube で「自立ステーションつばさ」と検索すると差別解消レボリューションの踊りが出てくるので、それを利用して差別しないように啓発を広めて欲しい。
- 障がい者の人をもっとコマーシャルや TV、ラジオなどメディアに出られるようにしたら広まるのではないか。
- 企業や商店等、障がい者に配慮している点を表示してもらう。
- 広報紙などにサービスの良いお店を取り上げる。情報をシェアする。

体験会

- 体験会・擬似体験
- 説明会<体験会。おおげさな感じではなく、気軽に参加できる企画をする。

教育

- 幼児教育で障がい者の人との触れ合い交流をつくる。
- 小・中・高校・大学への出前講座
- 教育で障がい者から学ぶ機会が必要。
- 障がいのない人への教育が重要。弱者に対する思いやりがなくては何事もうまくいかないと思う。

その他

- 講演会をもっと広げる。

- このところブラインドサッカー等が話題に挙がっている。NHK の TV でも番組を組んでいる。もっと広報しても良いのでは。
- サークル活動で呼びかけする。
- 今現在は子どもの障がい者理解よりも大人の方の理解が必要だと考える。そのためにも年齢層を問わずに障がいについて理解ができる取り組みが必要。

その他、テーマ外意見

- 車椅子を利用しているが、あまり接点がなかった為ママ友ができなかった。
- 視覚障がいの方に目の前に壁があることを伝えると「教えないで」と言われた。同情されたくない人もいる。
- 障害を持っていることを気づかれない人も多い。
- 障害についてポジティブに考えている人と放っておいて欲しい人がいる。
- 車椅子に乗っていると「こんなところにいると邪魔だ」と言われたことがある。逆に、優しくされると「同情するな」と思うかも。
- 大阪から多摩市に来たが、多摩市のほうが障がいのある方と一緒にいれる環境が整っていると感じた。大阪では「特別支援学級」と分けられていたが多摩市では名前がついていなく部活等でも一緒に過ごせた。
- 障害について理解が足りない大人も多い。子どもの目を隠すような親(大人)もいる。
- 災害避難訓練に参加したが、一般の人はホース訓練などをしていても、本部席に座っててくださいと言われる。障がい者として参加したのに何の指導もなかった。何か考えて欲しい。せめてトイレの場所くらい教えて欲しい。ただ受け付けただけ、行っただけだった。本当の災害時は家から出られない。狭いところでガイドヘルパーもいないと移動できない。
- 一般の催しにはあまり行かない。
- 一般の人は冷たい。「自分で精一杯」と言われると何も言えず、お願いできない。
- 自治会の掃除、報告、意見を言う場、役員もできなくなって黙っていることが多い。
- 障害によって必要な手助けが違う。
- 介護者にしか話しかけないことが多い。障がい者を無視するのは良くない。
- エスカレーターで右側に立ったら「え、日本人でしょ」と言われたことがある。皆歳をとったら歩けなくなってくる。障がい者に優しいということは高齢者にも優しいということ。
- 聴覚障がいの人とのコミュニケーションが難しいと思うことが多い。どうしたら良いか悩んでいる。
- 形ばかり、枠組みばかりの取り組みだと感じる。